



株式会社
特発三協製作所

本社：兵庫県尼崎市下坂部3丁目6番1号
TEL:06-4960-4300
http://www.tokuhatsu-sankyo.co.jp
従業員数：44名
設立：1959年12月
主な事業内容：金属ばね製造。薄板ばね、血ばね、ウエーブワッシャーなどの金型製作・試作



JOB INFORMATION

正社員募集

「おっちゃんとおばちゃん」の求人広告を見ての応募ですとお伝えください。

- 2025年3月 大学卒業見込
- 文理不問
- 専門学校 卒業生歓迎
- 面接重視

生産技術職 設計職

【内容】金属ばね等製品のプレスまたはマルチフォーミング加工による量産加工、製品の試作・開発(設計、加工、検査、納品)や部品加工、組立など
【応募資格】2025年3月大学・短大・高専・専門学校を卒業見込みの方(全学部全学科、文理関係なし)
【給与】院卒、大卒201,500円。高専、専門、短大卒180,600円 昇給 年1回、賞与 年2回。諸手当: 役職手当、時間外手当、通勤手当、営業手当、資格手当、委員会手当、子ども教育補助、住宅補助あり
【勤務地】本社(尼崎)
【勤務時間】8:00-17:00
【休日】完全週休2日制(土曜日、日曜日)、年間118日
【その他待遇】各種社会保険完備、退職金制度、新入社員研修、階層別研修、ばね検定、資格手当、住宅補助、子供教育補助など
【歓迎】経営理念に共感できる人。素直に行動できる人。特別なスキルや知識は必要ありません。
【連絡先】まずは一度お電話ください。
☎06-4960-4300(担当:馬場・三野・信太)



技術チーム 主任
池田 忠史さん

関西国際大学
経営学部 経営学科1年
ファン・ヴァン・ニューさん

営業チーム 主任
宮崎 佳周さん

関西国際大学
経営学部 経営学科1年
グエン・ティ・チャンさん

関西国際大学
経営学部 経営学科1年
ヴァン・ティ・フォンさん



社長
片谷 勉さん



特発三協製作所を
訪問してわかった

日本の
ものづくりって
すごい!

自動車やロボットアーム、ガス給湯器など精密機器に使われる金属部品「薄板ばね」を専門に製造する特発三協製作所。今回は、日本で就職を希望しているベトナム人留学生3名が会社訪問。「高い技術をどうやって得たのか?」「社員はどのように成長できるのか?」を聞いた。



FROM VIETNAM

「ものづくり」を支える高い技術

創業68年、薄板ばねの「試作・開発」「金型製作」「量産加工」を手掛ける特発三協製作所。技術力の高さに定評がある業界トップクラスのものづくり企業で、日本の経済・社会を支えるものづくり現場を学ぶために世界各国から視察団も多数訪れている。取引企業は数百社。各メーカーから「こんな機能をもつ商品に使いたい」という依頼を受け、オーダーメイドで薄板ばねを開発・製造している。

ベトナムからの留学生3人が訪れたのは、試作室。薄い金属板を加工する技術はすべて自社オリジナルで、さまざまな機械を使い、データを取りながら試作作業が行われていた。

「一人前の職人になるまでどれくらい期間がかかりますか」というニューさんの質問に、「金属板を単純に曲げるだけなら半年くらい。しかし材料力学や熱伝導などを勉強したり、新しい技術を開発したりもするため、技術習得にゴールはありません。一生かけて取り組める仕事です」と、技術チームの池田さん。営業チームの宮崎さんは「薄板ばねは、用途ごとに形や大きさが異なります。同じように見えるかもしれないが、0.01ミリ違うだけで速度や音、クッション性など商品の機能性が大きく変わります。試作して性能チェック・改良を繰り返し5年かけて製品にするものもあります」と答える。

制を考えるために必要なのが『頭脳』。考えながら作業を進めるという経験の蓄積が成長につながります。顧客が求める製品を生み出すためにも、やはり頭脳は必要です。

ニューさん「日本で10年ほど働き、その後は母国で起業を考えています」
池田さん「ものづくりで起業したいなら、現場では数字が大切。設計図面を理解したり寸法を測ったりするからです。目の前にある数字を受け止め、製造に活かすという素直さが大切です」

「そんなに長い期間がかかるのは驚きです。どんな時にやりがいを感じますか」と、チャンさん。「試行錯誤で苦しむこともあります。しかし、アイデアが湧いて止まらないときは楽しいです。最終的にOKが出たときは素晴らしいですよ」と、池田さんは答える。会社の強みである「高い技術力」「オーダーメイドのものづくり」が、社員のやりがいに直結していることがわかった。

ひとつの目標に社員が力を合わせる

留学生3名は全員、日本での就職を考えている。ここからは片谷社長を交え、企業文化や戦略、働き方について質問した。

フォンさん「言語や文化の違いはネットになりませんか。私はサービス業のアルバイトで、親切にしていたつもりなのに相手が冷たい態度になり、不安になったことがあります」

片谷社長「当社は外国人の正社員採用もしています。しかし外国人に限らず、意図が伝わっていないことは、日本人同士でもよくあります。お互いが黙っているといつまでたってもモヤモヤを抱えたままになります。わからないことはその場で理由を聞けるといいですね」

宮崎さん「ものづくりは共同作業。社員みんなが『優れた製品を作ろう』というひとつの目標に向かって進んでい

片谷社長「経営の視点をもつには、キャッシュフローと呼ばれるお金の流れを理解しておきたいですね。ものやサービスを売ることでどれだけ金額を生み出せるか、そのお金をどう使えば利益を増やすことができるか。考えながら働くことをおすすめします」
訪問後、3人の留学生は口々に「ベトナムでは50年も続く企業はなかなか多くありません。日本の企業のものづくりの強さがわかりました」と興奮しきりだった。